

○ 平成27年度（第2回：岡山県）国有林モニター会議 意見交換会の概要

【80代男性】

- 本日見学した釜谷国有林について、9月1日から1ヶ月半、列状間伐を進めているということであるが、事業費はどのくらいになるのか。面積は何haなのか。また1ヶ月半というのは妥当なものなのか。

【局】

- 釜谷国有林ともう1カ所の、2カ所合わせて契約金額は約4,400万円となっており、面積は約50haです。半分の国有林は既に終了しており、工期は12月までとなっておりますので順調な進行となっております。

【50代女性】

- 切り捨て間伐で放置された材というのは、後からでもバイオマスに活用できないのか。

【局】

- 間伐した木材は基本的には、使っていく方針ではありますが、断片的に見ていくと、確かに切り捨て材は一部ございます。どうしても機械が届かない部分はやむを得ず運び出せないものもあります。

【50代女性】

- 災害や集中豪雨の映像等をニュースで見ていると、あれは切り捨て間伐が原因ではないかと思える、切った木が流れていく映像を見るので、切り捨てた間伐は、危ない場所に置いてあるのではないかと感じる。経済の事もあるが、災害等のことも考えるべきである。

【局】

- 災害や集中豪雨では、土壌ごと流されていくものが多いことをご理解下さい。全ての木材を使っていければ良いのですが、技術的、経済的面で困難な状態があります。

【80代男性】

- 容器包装リサイクルの関係で、ペットボトルを資源ゴミに出したものが中国に高値で買い取られて、リサイクル工場に原料が不足することがあったが、木質バイオマスでも同じような事が起きるのでは無いかと心配である。材料の生産側、工場側も困ってしまうことが無いように、良いことは長く続くように考えて欲しい。

【60代男性】

- 近畿中国森林管理局管内で21カ所のバイオマス発電所の計画があり、11カ所が稼働中との説明であったが、この数は、適正なのか。ある程度、拠点がある方が、物量の面も含めて効果が出てくると思われる。

【局】

- 設備の数量が適正かどうかについては、各設備の規模にもよりますが、固定買取制度ができてから、木質バイオマス発電は、かなり増えています。国産材の自給率は今年、26年ぶりに30%超えました。今後も地域材を使ってもらえるような需要を造れることが大きな施策方針となっております。

【30代男性】

- 岡山森林管理署において「快適環境形成タイプ」の面積区分が0%である理由はなにか。

【局】

- これは海沿いの地域にあるもの、例えば「気比の松原」のようにごく限られた森に対してのものなので、こういった森に当てはまるものがない場合は0%になります。近畿中国管理局管内全体でも、0.29%しかございません。

【60代女性】

- 林業という職業を考えた時に我々の世代もそうだが、もっと若い世代にも興味を持ってもらいたい。そのためには、もっと啓発活動に力を入れて欲しい。子供達に対する学校教育にも取り入れて欲しい。今日、実際現地を見たときには感動があったので、いろんなメディアに発信して、若い人たちにもっともっと伝えて欲しい。

【40代男性】

- 普及啓発を行うに当たり、森林の持つ多面的機能、山の日など色々な角度があると思う。例えば、民間のセブンイレブンの森はツイッターやフェイスブックなど頻繁に情報発信を行っているが、林野庁はどのように市民に知らせる方法、PRなどを考えているか。例えば、義務教育課程に入れるような計画はないのか。

【局】

- 昭和40年代頃までは、産業規模が大きく林業が学習要領として教科書にも取り入れられていましたが、昭和50年～平成元年頃は、教科書から林業という言葉自体もなくなった時期もありました。大学などにも、昔は林学科がありましたが、今は森林環境科学等の学科名が増えています。我々も問題意識は持っていて、本庁では文部科学省とも連携し、学校に対する教育の面では、もう少し工夫しなければいけないと考えております。ちなみに岡山森林管理署では、見学していただいた釜谷の国有林に、岡山大学の農学部の学生が見学に来られたり、このセンターで小学校や保育園等を対象に簡単な木や植物についての教室や、どんぐり等を使った簡単な木工教室等、地元の山に興味を持ってもらえるような普及啓発も行っております。また、近畿中国森林管理局では、学校の先生向けの環境教育にも取り組んでおりますが、まだまだ皆さんの目に触れていないのは十分ではないことと感じており、今後も努力してまいります。

【40代男性】

- 学校等でそういった見学会を開いてもらいたいときは、どこに申し込めば良いのか。

【局】

- お近くの森林管理署等にご相談下さい。

【80代男性】

- 知るより、実際見ることが大切だと思う。山と海との関係が最近取り上げられるようになり、このようなニュースはどんどん取り上げて欲しい。森がないと、綺麗な海はないということをもっと伝えて欲しい。昔は「もやい山」というのがあった。民有林を国有林として管理し、「もやい山」のように国が管理することで、豊かな山と海のある日本にして欲しい。

【80代男性】

- 木の駅というのがあるが、採算はとれているのか。

【局】

- 例えば、木の駅では、6,000円/m³で買取り、チップ工場の買取り価格との差額を公的な予算で補うケースが多いと聞いています。ただ、自分の山から木を切って搬出するという取組は地域活性化の主体として重要と認識しています。